

私たちと福祉

日立一高附属中 三年

園部

達也

私の祖父が倒れたのをきっかけに祖母との生活が始まってもうすぐ八年になろうとしている。口にしてはいけないことだけど、今まで一緒に暮らしていなかっただ人と暮らすというのは思っていたよりも簡単なことではなく始めは嬉しかっただ私の気持ちもだんかんと重おもに変わっていった。どこに行ってもおばあちゃんか家にいるから

が母の口ぐせになり、私と姉の生活は常に時間追われただ生活へと変わっていった。

祖母は福島で暮らしていたので、日立には友達も知り合いもない。一日中、家で本を読んだり写真を見たりしてすごし、外に出るのは病院に行く時と、時々伯母さん達の家に泊まりに行く時だけだった。家事をすることもなければ買い物に誘っても行くこともなく、リファリーに座ったままの生活。誰もがこのままだまじやボケてしまおうと心配していた。

半年くらいたったころ、食事とトイレ、入浴の時以外は座りっぱなしの祖母がこのままだと歩けなくなっってしまったりと心配した母がデイサービスに通ってみてはと父に提案した。実際に私も隣に住むおじいさんとおばあさんが朝迎いの車が来て他のお年寄りの入達と出かけていく姿をみていたので、祖母にはとっってもいいことだと思っただけでなく、出掛けるということで時間を気にとめた生活を送り、身だしなみにも常に気を付けている……。生活に張りがあるということとは祖母にいい刺激になるのではないかと……。見学に行くことになりいい返事をしなかった祖母を連れ、母は車で五分程の所にある介護施設へ見学へ行きました。しかし、家に戻った祖母の口からぞりきたのは

「私は行きたくない」
のひと言がっただけ。確かに私も新しいことをする時にためらうこともある。祖母はもともと

人の輪の中に入ることが昔から好きじゃなか
たと聞いていたが、ちよつとだけ勇気を出し
て外の世界へ飛び込んでいけば一人では味わ
えない楽しいことが待っているかもしれない
と思うと残念でたまりなかつた。

今私たちの住む社会にはいろいろな介護サ
ービスが存在している。その人その人に適し
たサービスを選が有効に活用していくことが
サービスを受ける当事者だけでなくその家族
にも必要であり大切なことだと思う。家族が

サービスを求めても私の家のように当事者が
拒否するケースは多いと思う。サービスを受
ける人達が過ざしやさいと思えるシステム作
りを今の社会に私は求めたい。